2015 1 January

SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
28	29	30	31	1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

「フレイ、ほら」
　ことん、と目の前に置かれたマグカップ。手にとって覗き込むと、
フレイの好きな甘い香りが漂った。
「ホットミルク……？　レオンさん、私がこれ大好きなの知ってたんですか？」
「なんだ、そんなに好きだったのか？　知らなかったな」
　横に腰を下ろすと、そっと肩を抱き寄せる。
「なんてな、あんたの好みくらい知っている」
　柔らかい笑みに心の奥が熱くなる。誤魔化すようにカップに口をつけて、
レオンの手に何もないことに気付いた。顔を上げて、
「レオンさんは飲まな――」
　尋ねようとして。

　気付いた時にはもう遅く、唇から柔らかい温もりが離れていく。
「……オレはこれで十分だ」
　唇をぺろりと舐めて、レオンは小さく微笑んだ。

Illustration：冬乃ゆき　SSS：水那